

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

既習の読み方を「活用・発揮の可能な読み方」にする1時間

実践場面

中学校第1学年

「中学校入学後、最初の説明的文章の単元計画を立てる場面」

ねらい

これまで学習してきた「構造と内容の把握」に関する内容を整理し、これからの説明的な文章の学習で必要となる読み方（指導事項）のイメージをもてるようにする。

【アイディアのポイント】

中学校で初めて学習する説明的な文章の単元に、身に付けてきた「読むこと」の資質・能力をいつでも使える状態に整理する場面を設定することで、今後ねらいに据える「資質・能力」を生徒が読み方のスキルアップを意識しながら、主体的に「獲得→整理→活用・発揮」できるようにすることを目指す。

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

教材名 ダイコンは大きな根？

時 数 4時間

指導目標

◎文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え，要旨を把握することができる。
(読むこと(1)ア)



単元計画

- 1 段落分けをし，段落同士の関係を考えながら通読する。
- 2 文章の中心的な部分を捉える。
(「問いを投げ掛けている段落」と「答えを示している段落」を見付け，そのその要旨をまとめる。)
- 3 段落の役割について考える。
- 4 学習を振り返る。

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

単元計画

- 1 段落分けをし，段落同士の関係を考えながら通読する。
- 2 文章の中心的部分を捉える。
（「問いを投げ掛けている段落」と「答えを示している段落」を見付け，その要旨をまとめる。）
- 3 段落の役割について考える。
- 4 学習を振り返る。

（赤字が育成する資質・能力）

- ・ 1は指導しなくてもできるのか。
- ・ できるとして，生徒はどうやって読み取り，まとめているのか。
- ・ そもそも，教師は生徒にどんな読みの力が備わっているのかを把握しているのか。

個々の教材を足場に積み上げてきた学びを俯瞰的に眺め，身に付けてきた資質・能力（既習の読み方）を整理する必要があるのではないか。

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

単元計画

- 1 小学校での学習経験を整理する。
- 2 段落分けをし，段落同士の関係を考えながら通読する。
- 3 文章の中心的部分を捉える。
- 4 段落の役割について考える。
- 5 学習を振り返る。

既習の読み方を「活用・発揮の可能な読み方」にするために，学習経験を整理していく。

教材名「たんぽぽのちえ」（2年）

整理の段階

【第1段階】

たんぽぽがいろいろな知恵を働かせながら仲間を増やしていること。

→教材の内容のみに着目している。

【第2段階】

たんぽぽの知恵を探るには時間の流れに着目すればよいこと。

→読み方に着目しているが，教材から離れていない。

【第3形態】

- ・時間の経過を表す言葉
- ・結論の場所とそれを示す言葉

→他の教材で使える状態に読み方が整理されている。

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

「読み方の整理」チェックリスト ～説明文 小1・2年～

| 教材名 | 学んだこと | 道具化 |
|----------|--|------|
| うみのかくれんぼ | ①生き物の名前②隠れ場所③体の仕組みと機能 ④隠れる方法 の順序に着目すれば書いてあることが分かる。 | 第2段階 |



| 教材名 | 学んだこと | 道具化 |
|----------|----------|--------------|
| うみのかくれんぼ | 構成の順序の約束 | 第3段階 整理完了 |

※教材を分担し既習の読み方を整理していく。グループ内で検討を繰り返し、第3段階に向け修正を図る。

※活用・発揮するときのために、整理した読み方に名前付けるなどして、分類しておくことが大切。

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

○チェックリストを作る

- はじめ・なか・おわり
- まとめ・主張
- 事例
- 要旨

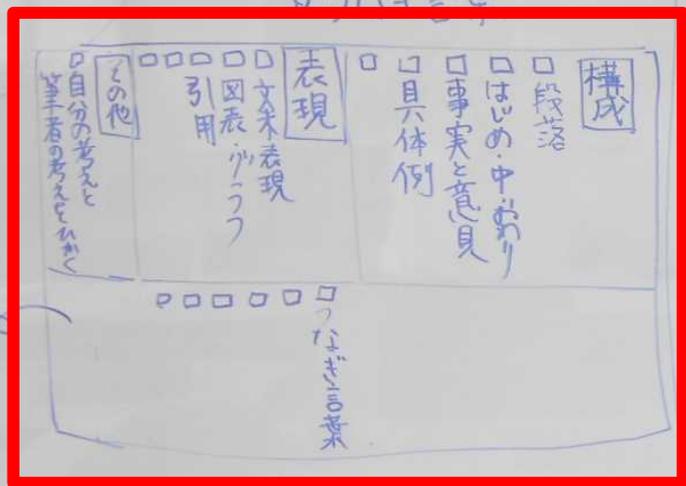
○注目した言葉

- キーワード
- 中心となる言葉
- 文末表現
- つなぎ言葉



説明文を読むときに使った“ワザ”を出し合う。

- 1 “ワザ”をたんに出し合う。
短冊に1つずつ書き黒板に貼る。
分類頁に分ける。



共有

A-02 初任者研修講座（中学校）Ⅱの受講者による検討及び作成

受講者の感想

- 生徒が小学校で学んだ6年間はこれほど濃かったのかと再認識でき、これを無駄にしてはいけないと感じた。
- 「小学校での学びの整理」は心のどこかで教師がやる仕事だと思っていた。しかし、生徒に行わせることにより、意識付けがより強くできることが分かった。
- その都度、既習の読み方を確認していくのではなく、自分の中にあるストックから引き出して使うことで、主体的な学習に向かう姿勢が養われるのだと思った。
- 結局教材の「内容」ばかりに注目させていた。その結果「どうせ受験には初見の話だし」という思いを抱かせていた。読み方に着目した学習を行えば、「どんな文章でも、なんだか読めるぞ！」という思いにつながっていきそうだ。